

第21回臨床教科教育学セミナー2022のご案内

- 1 主催 臨床教科教育学学会
- 2 期日 令和4年12月10日(土)
- 3 会場 オンライン(Zoomによる同期型)
- 4 日程(予定)

8時00分～	8時20分	受付
8時20分～	9時40分	自由研究発表(4発表)
9時40分～	9時50分	休憩
9時50分～	11時10分	自由研究発表(4発表)(3ブレイクアウト・ルーム)
11時10分～	11時20分	休憩
12時20分～	13時00分	昼食, 休憩
13時00分～	14時20分	自由研究発表(4発表)(3ブレイクアウト・ルーム)
14時20分～	14時30分	休憩
14時30分～	15時50分	自由研究発表(4発表)(3ブレイクアウト・ルーム)
15時50分～	16時00分	休憩
16時00分～	17時20分	自由研究発表(4発表)(3ブレイクアウト・ルーム)

5 発表申し込み

(1) 研究発表は、自由研究発表のみとします。

- ・発表者は会員に限ります。1発表のみです。
- ・会員の発表資格については、学会費に関して、以下の①または②の要件を満たすことが条件です。

①「5年一括払い」を2020年度以前に選択した方で、今年度分の納入が済んでいる。

②11月30日までに「会費ペイ」による学会費継続課金手続きの登録が完了していること。

- ・新たに学会に入会し発表される方は、発表申し込みと並行して次の臨床教科教育学学会事務局に入会手続きをお取りください。
- ・本学会ホームページ(<http://www.rinkyokyo.com/>)上にある“入会の方法”に、入会手続きの詳細を記載しています。

(2) 自由研究発表及び発表要項の原稿送付方法

発表を希望される方は、発表の申し込みと同時に発表要項の完成原稿も添付ファイル(A4版2頁pdfのみ、ページなし)にて送付してください。申し込みの書式は自由ですが以下の事項をお書きください。発表要項の原稿の形式は「12 発表要項の原稿の形式」をご参照ください。10月31日(月)必着(サーバーの受信時刻が10月31日までの日付・時刻となること)にて電子メールでご連絡ください。

※11月01日以降の発表申込み(受信時刻が11月01日以降の日付・時刻となっている場合は)、理由の如何を問わず一切受け付けられません。ぜひ余裕を持ってお申し込みください。

※原稿が10月31日(月)までに届かない場合(受信時刻が11月01日以降の日付・時刻となっている場合は)、理由の如何を問わず発表辞退とみなします。ぜひ余裕を持ってお送りください。

※件名を「【セミナー2022】発表申込」としてください。登壇発表者(○印のついている方)は、発表申し込みを持って参加申し込みとさせていただきます。その場合、お手数でも件名を「【セミナー2022】発表・参加申込」としてください。登壇しない連名発表者(○印のついていない方)は、別途参加申し込みをしてください。

①「発表者氏名(ふりがな)」

※連名で発表される場合は、連名者すべての氏名を記入の上、登壇発表者の氏名冒頭に○印を付けてください。

※①に記載された発表者氏名が要項にそのまま載りますので、正確に記載願います。

②「発表題目」

※②に記載された発表題目が要項にそのまま載りますので、正確に記載願います。

③「発表者所属」

※連名で発表される場合は、連名者すべての所属を正確に記入してください。

④「発表者連絡住所」

※連名で発表される場合は、連絡の取れる代表者の住所を正確に記入してください。

⑤「発表者連絡先電話番号」

※連名で発表される場合は、連絡の取れる代表者の連絡先電話番号を正確に記入してください。

⑥「発表者連絡電子メールアドレス」

※連名で発表される場合は、連絡の取れる代表者の電子メールアドレスを正確に記入してください。

⑦「発表原稿」

※pdfで作成し、メールに添付してください(pdfのみ)。

※原稿はA4版2頁です。1頁ないしは3頁にならないようご留意願います。3頁目が白紙にならないように仕上がりを点検してください。

※ページ番号は入れないでください。

※当セミナーでは、毎回、送信先のメールアドレスの間違いによる未着に伴った発表辞退が発生しています。送信される場合には、送信先のアドレスを十分に確認した上で操作願います。10月31日までに原稿未着の発表は、理由の如何を問わず発表辞退となりますので、特にご留意願います。

※11月01日以降の掲載原稿の差し替えは一切できませんのでご留意願います。

※11月01日以降の原稿に係わる研究内容の大幅な変更（原稿の内容と当日の発表の内容が食い違っている等）はご遠慮ください。

※発表要項はpdfのみとなりますのでパスワードを設定した上で公開します。パスワードは申し込み締め切り後、参加者連絡電子メールアドレス宛に配信します。

発表申し込み・発表要項の原稿送付先電子メール:21thseminar2022@gmail.com(10/01以降に対応)

(3)発表形式等

- ・「自由研究発表」は発表15分、質疑3分、準備・後片付け2分で行います。
- ・発表の日時の指定はご遠慮ください。発表時間等に関するご要望等についてはご希望に添うことはできません。

6 参加申し込み方法

大会に参加を希望される方は、12月03日(土)必着にて電子メールでご連絡ください。書式は自由ですが、以下の事項をお書きください。登壇されずに連名で発表される方(筆頭発表者以外の方)も必ず参加申込をしてください。

登壇発表者の方(○印のついている方)は、発表申し込みを持って参加申し込みに代えることができます。その場合、お手数でも件名を「【セミナー2022】発表・参加申込」としてください。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

登壇しない連名発表者の方(○印のついていない方)で参加される方は、必ず、参加申し込みをしてください。

(件名)「【セミナー2022】参加申込」としてください。

①「参加者氏名」

※ご事情により、複数の参加者申込を1メールにて申し込まれる場合、例のように一人ずつ①～⑦に記載願います(①に複数の参加者名を記入することはご遠慮ください)。ただし、その場合、記載されている複数の参加申込者が同じ時刻に申し込んだものとして処理されますので予め了解願います。なお、③「参加者連絡住所」、④「参加者連絡先電話番号」⑤「参加者連絡電子メールアドレス」については、連絡の取れる代表者の情報を記載していただいてもかまいません。

(例)

- ①「参加者氏名」 岐阜太郎
- ②「参加者所属」 岐阜聖徳学園大学附属小学校
- ③「参加者連絡住所」 岐阜市柳津町高桑西 1-1
- ④「参加者連絡先電話番号」 000-111-2222
- ⑤「参加者連絡電子メールアドレス」 toro@nagaragawa.jp

- ①「参加者氏名」 岐阜二郎
- ②「参加者所属」 岐阜聖徳学園大学附属小学校
- ③「参加者連絡住所」 岐阜市柳津町高桑西 1-1
- ④「参加者連絡先電話番号」 333-444-5555
- ⑤「参加者連絡電子メールアドレス」 jiro@ibigawa.jp

- ②「参加者所属」
- ③「参加者連絡住所」
- ④「参加者連絡先電話番号」
- ⑤「参加者連絡電子メールアドレス」

※Zoom 接続先の情報は参加申し込み締め切り後、申し込まれた「参加者連絡電子メールアドレス」宛にのみ配信します。登壇発表者の方(○印のついている方)で発表申し込みを持って参加申し込みとされた方には、「発表者連絡電子メールアドレス」宛にのみ配信します。

参加申し込み 電子メール: 21thseminar2022@gmail.com (10/01以降に対応)

7 大会参加費

無料です。
懇親会はありません。

8 問い合わせ先

第 21 回臨床教科教育学セミナー2022 実行委員会 電子メール: 21thseminar2022@gmail.com (10/01 以降に対応)

詳細が決定し次第、最新情報をホーム・ページ上に掲載します。 <http://www.rinkyokyo.com/>
お問合せ、ご質問は、

(件名)「【セミナー2022】問い合わせ」としてください。

- [1]お名前
- [2]ご所属
- [3]連絡先電子メールアドレス
- [4]お問い合わせ内容

上記を記入した電子メールを、実行委員会宛にお送りください。

9 第 21 回臨床教科教育学セミナー2022 実行委員会

〒501-6194 岐阜市柳津町高桑西 1 - 1 岐阜聖徳学園大学教育学部寺田研究室気付
臨床教科教育学会第 21 回臨床教科教育学セミナー2022 実行委員会事務局
実行委員長：寺田光宏

10 発表要項の原稿の形式

(原稿例)

〇〇条件の提示による〇〇時の〇〇概念の意識変容に関する研究

〇臨 床介 (〇〇大学大学院)
投稿 例子 (〇〇大学)
(rinkyokyo@rinkyokyo.com)

要約

本研究の目的は、次の3点である。第1は、各教科における〇〇を取り入れた授業についての教師の意識を明らかにすることである。第2は、既習前に〇〇条件 (〇〇的〇〇を生じさせる条件) の提示による〇〇効果、〇〇効果 (〇〇度と〇〇的影響) を意識変容から検討することである。第3は、既習前に〇〇条件を提示することが、〇〇として機能するか検討することである。その結果、次のことが明らかになった。

キーワード：学び合い、人間関係、意識変容

I 問題の所在

最近の〇〇教育では、基礎基本の定着を図るとともに、主体的に問題解決できる能力が求められている。特に後者の点については、学習者に〇〇がおかれる〇〇的〇〇が〇〇される授業を構築しなければならない。現在まで、〇〇的〇〇が生じることにより〇〇的〇〇がなされ、〇〇効果につながる例が多く報告されている。

〇・〇〇(1994)は、〇〇概念を通して〇〇提示における概念変容の研究を行った¹⁾。それによると、事象をうまく〇〇できないときに〇〇的〇〇が生じ、その〇〇のために概念変容が起こると捉えている。つまり、概念〇〇〇〇である。

II 研究目的

本研究では、〇〇を解明することを目的とする。

III 研究方法

注意事項

1. 原稿はA4版2枚とする。
2. タイトルはゴシック体14pt太字で、中央寄せにする。
3. 研究者名(所属校名)は明朝体12ptで右寄せにする。共同研究者、連絡先のアドレスについても同じ。
4. 要約は簡潔にまとめ、1行開けてキーワードを5語以内とする。1行開けて見出しを書き始める。
5. 見出しはゴシック体10.5pt太字で、前文との間を1行開ける。

6. 本文は2段組、文字数22字、行数43行とし、明朝体10.5ptで仕上げる。
7. 余白は上下25mm、左右20mmとする。
8. 各引用箇所には、1), 2), 3)の順に右上付けで、番号を入れる。

引用文献

- 1) ○○・○○：「○○提示における生徒の概念の変容－○○を事例とした○○概念に関して－」，○○学会研究紀要，Vol. ○○，1994.

注意事項

著者名：「論文名」，雑誌名，巻，頁，発行機関または発行所，発行年.

著者名：「単行本」，頁，発行所，発行年.